

# 日本医史学雑誌 第五十卷 第二号 目次

原著

日中両国における人痘接種法の比較研究	邵 沛	一八七
杉山檢校遺徳顕彰会所蔵の『杉山真伝流』	大浦宏勝、小曾戸洋	二二三
G H Q 占領期における医師会の設立・加入体制の構築経緯	神里(所) 彩子	二四三
研究ノート		
電磁波による生体影響の研究・治療の歴史	奈良圭之輔、岩井信市、横地章生、小口勝司	二七五

資料

寛政甲寅考試書類三種——その一	戸出一郎、町泉寿郎	二九一
手塚良斎「医学所御用留」(六)	深瀬 泰旦	三〇三

記事

例会記録		
例会抄録		

呉秀三・樫田五郎『精神病患者私宅監置ノ實況及ヒ其統計的觀察』精読	橋本 明	三一
本間玄調(棗軒)について	荒井 保男	三三
『本草品彙精要』卷二の研究	肖 永芝	三四
齋藤茂吉ほか・断種法史上の人びと(七)	岡田 靖雄	三六
済生学舎を中心とした野口英世の細菌学への道程	唐沢信安、殿崎正明	三九
日本における病院歯科の軌跡	榊原悠紀田郎	三〇
相州小田原藩医・市川氏と市河氏	中西 淳朗	三三

書籍紹介

ジョン・ダフィー 網野豊 訳『アメリカ医学の歴史 ヒボクラテスから医科学へ』	瀧澤 利行	三三
篠田達明『モナ・リザは高脂血症だった』	山崎 光夫	三五
日本精神神経学会百年史編集委員会『日本精神神経学会百年史』	岡田 靖雄	三七

吉元昭治『日本全国神話伝説道指南』	奥沢	三九
太田安雄『太田雄寧傳』	寺畑	三三
梶田 昭『医学の歴史』	三輪	三三
瀧澤利行『養生論の思想』	新村	三三
小竹英夫『北海道医学教育史攷』	島田	三六
館澤貢次『ドイツ人に敬愛された医師 肥沼信次』	唐沢	三七
館野正美『吉益東洞『古書醫言』の研究』	秋葉	三九
山崎光夫『ドンネルの男 北里柴三郎』	会田	四〇
片桐一男『平成蘭学事始 江戸・長崎の日蘭交流史話』	望月	四三
川村純一『千葉県伝染病史』	深瀬	四三
文庫めぐり	後藤	四〇
東京大学総合図書館	志朗	二九

《本号の表紙絵》

双蛇のモニュメント

2002年5月、トルコ共和国カイセリ市にあるゲヴヘル・ネシベ医学歴史博物館の廻廊で写した1枚である。この博物館ではトルコ語以外のパンフレットは売っていない。館内に英文立看板が1つあるだけである。バスの待合せ時間少く立看板を精しく読んで来なかったのが、概略しか書けないことをおゆるしいたきたい。

セルジュクトルコの統治者Giyasedilim Keyhüsrev I世の娘の遺志により、1206年に建設されたアナトリア地方で最初の医学校と病院の跡を、現在は博物館に利用しており Erciyes 大学の管理下にある。

この石造彫刻はタタミ1/3ほどのもので、図のようにトルコでは2匹の蛇を医療のシンボルとして用いることが多く、杖からませる場合は1匹らしい。2匹の蛇にかこまれているのはセルジュク王朝のメタルで、ギリシャ神話のロータスと云われ、食すると苦悩や故郷を忘れ悦楽にふけれるという果実の断面図と思われる。(中西淳朗)